

ヤマトシジミ

「コキアの紅葉が始まり、緑から赤へのグラデーションが魅力的です」

ネット上にこの見出しを発見しました。読み進めると、臨時列車 特急海浜公園コキア号が川越から勝田へ直通運転とあります。久しぶり休日に出かけてみようと、切符を手配し、ひたち海浜公園を散策しました。赤と緑の混じる景色に感動。那珂湊まで脚を伸ばし、おさかな市場で、昼食をとることにしました。食堂が連なり、屋台が並びます。しばし楽しんでいると、冷

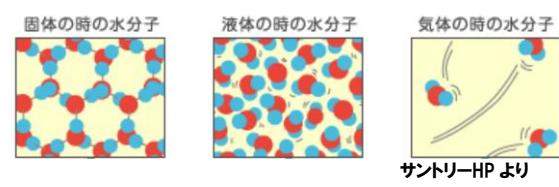
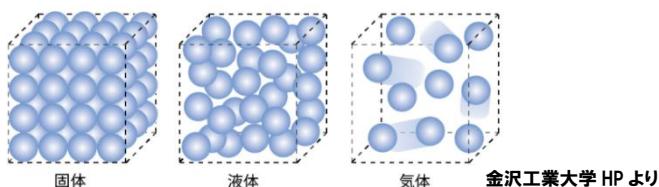


たい風が吹き始めました。雨が降りだす前に小走りで駅に向かいました。汗をかいたせいか、水分としょっぱいものを欲したので、土産に購入した“味わいしじみ”的を切りました。原料を見るとヤマトシジミとあります。ヤマトとは“大和”つまり日本を意味します。

そういうえばヤマトすなわち日本の政界に新しい風が吹いています。高市首相の誕生です。女性初の首相となったのです。彼女は20代の頃から、政治に対し評論しています。様々な角度から切れ込み分析をしていた方ですから、停滞する日本経済が、人口減少が…、野党との政権争いのための足の引っ張りあいに力を注ぐのではなく、各党が団結して数々の問題を解決し、日本を前進させてほしい。



1年生の理科では、物質の三態についての授業です。水の状態変化についての説明です。物質



は、左図のように固体は分子(や原子)が規則正しく並んでいます。まさに団結している状態です。だ



から形が変化しない!!熱を加えると液体となり分子間に隙間ができるので、体積が増えます。ところが右図のように水に関しては特別です。そもそも氷となるときに隙間のある並び方をします。液体の水になるとその形がくずれ、分子同士の距離が近くなることで体積が減ります。(イメージとしては、10人で組体操のピラミッドをつくるのが氷、10人で押しから饅頭をするのが液体の水。ピラミッドの形は変化しないが隙間があるので体積は大きい。押しから饅頭は形が変化するが、押し合って体積がピラミッドに比べ小さい) 理科教師として解説のやまとなる所です。生徒に理解の風を吹かせたい場面です。



30日朝、我が家ローズマリーの花が開き、小さな蝶がとまっていました。蝶の名前は、なんとヤマトシジミ!!貝の名前ではありません。蝶の名前にもヤマトシジミがあるのです。貝が大和蜋、蝶が大和小灰蝶と書くので、漢字なら区別ができます。偶然にもまたまたヤマトシジミを目にすることが続きました。



さて、清瀬中にも新しい風が吹きました。新生徒会の誕生です。10月23日生徒朝礼において認証式を行いました。生徒会長のあいさつに始まり、生徒会役員、専門委員会委員長、学級委員会委員長、中央委員会議長がそれぞれ、活動方針演説を行いました。清瀬中を前進させてほしい。

目指すは 高い位置、殊勝な態度で!!

新生徒会が貝のように黙ってしまうか、蝶のように舞うか、皆さんの協力にゆだねられます。